

赤いハンカチ



1964
製作＝日活
カラー
ワイド
98分

企画・児井英生 監督・外田利雄 脚本・小川英 山崎巖 舛田利雄 撮影・宮義隆 編集・辻井正則
出演・石原裕次郎 浅江礼子 二谷英明 川地良一 桂小金治
麻薬組織の容疑者を誘殺した刑事が放浪の果てに事件の真相を追い詰めていく。そして思いも寄らぬ真犯人が……。格次郎映画の傑作。

洗練されたカットングで無駄なカットは無い。特に主人公の感情表現を的確なフラッシュインサートする録造プレス機の編集は圧巻。



辻井正則

拳銃無頼帖 電光石火の男



1960
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
86分

企画・浅田健三 監督・野村浩志 脚本・松浦健郎 原作・城戸礼
撮影・塚本一栄 編集・辻井正則
出演・赤木圭一 二谷英明 浅江礼子 白木マリ 穴戸錠
拳銃無頼帖シリーズ第2作目、身代わりで刑務所に入った丈二が出所すると…。吉永小百合がウェイトレス役で映画デビュー。

日活アクション映画が最も輝いていた1960年代、赤木圭一郎のカッコ良さを見事に襲いた御伽草子のような娯楽作品。

若い人



1962
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
90分

企画・坂上静翁 監督・西河克己 脚本・三木克己
原作・石坂洋次郎 撮影・森原憲治 編集・鈴木敏
出演・浅江礼子 伊丹十三 芦川いづみ 松尾嘉代 宇野重吉

私生児として生まれ女学校に通う恵子。そんな彼女の特殊な生活環境の中、新人教師・間崎との交流を中心に多感な思春期の心理を描く。

西河演出のパッションの中、石原・浅江・吉永の3大スターを迎え、演出とマッチングした心地良いアクションとダイアログ観が楽しめる。



鈴木暁

赤い蕾と白い花



1962
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
80分

企画・坂上静翁 監督・西河克己 脚本・池田一朗
原作・石坂洋次郎「寒川」 撮影・若佐一泉 編集・鈴木敏
出演・吉永小百合 浜田光夫 金子信雄 高峰三枝子 北林谷栄
重夫は母を亡くし、とみ子も父を亡くしていった。この二人の高校生が互いの父と母を結び付けよう…。吉永小百合がレコードデビューとなった「寒い朝」が主題歌。

屈託の無い高校生の多感さや心身のアンバランス、大人との距離感を丁寧なショットで描き、またコミカルでユニークなモンタージュも楽しめる。

実録白川和子 裸の履歴書



1973
製作＝日活
カラー
ワイド
77分
R18指定

企画・武田清 監督・櫻根中生 脚本・山田陽造
撮影・森原 編集・辻井正則
出演・白川和子 殿山泰司 田中真理 小川節子 片桐夕子

「ポルノの女王」白川和子の引退映画。白川和子の華々しい生き様をセミドキュメントタッチで鮮烈に描く。

ドキュメントタッチを意識して撮影された斬新な演出やカメラワークを巧みに生かしながら臨場感を失わない様に繋いだ。

大幹部 無頼



1968
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
97分

企画・若井金男 監督・小沢啓一 脚本・池上金男 久保田圭
原作・藤田五郎 撮影・高村倉太郎 編集・辻井正則
出演・渡哲也 松原智恵子 内田良平 岡崎二郎 田中邦雄

汽車の中、藤田五郎は厳冬の地、弘前に向かうが…。ヤクザが生きる為の凌ぎ、非情の掟と宿命。ドスを使ったアクションの傑作。

タイトルバックで前作をモンタージュ。ラストの「どぶ川」と女子校のパーボールとのクロスカットは映画史に残る編集。

渡り鳥故郷へ帰る



1962
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
83分

企画・児井英生 監督・牛原昭一 脚本・下飯坂菊馬
撮影・伊佐山三郎 編集・辻井正則
出演・小林旭 和田清治 笹森礼子 白木マリ 南洋子

故郷高松に舞い戻った漁漁は二大ヤクザ組織の抗争に巻き込まれる。その後のヤクザ映画の製作に大きな影響を与えた作品。

シリーズの世界観、堪える主人公の「スタティック(静)」リズム」ラストの「アクション(動)」リズム」へ変わる様が見所。

関東無宿



1963
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
92分

企画・浅田健三 監督・鈴木清順 脚本・八木保太郎
原作・平林たい子「地底の歌」 撮影・峰重隆 編集・鈴木敏
出演・小林旭 松原智恵子 平田十郎 伊藤雄之助 中原早苗

伊豆組の鶴田は三年前に知り合った賭博師の辰子と再会した。鶴田の胸に顔を埋める辰子。その時から鶴田は辰子の男「おかる八」との対決を決意していた。

鈴木清順のポップな演出、リズムカルなカットングで主人公への感情移入を断絶せず、客観的な視点を観客に与えてくれる。

執炎



1964
製作＝日活
白黒
ワイド
121分

企画・大塚和 監督・蔵原惟精 脚本・山田信夫
原作・加茂昌子 撮影・宮義隆 編集・鈴木敏
出演・浅江礼子 伊丹十三 芦川いづみ 松尾嘉代 宇野重吉

きよと拓治は古い因習を破って結ばれた。戦争の恐怖の中、狂ったように愛を確かめ合う。拓治に赤紙が、愛蔵の能面をつけて舞うきよの姿は執念の叫びだった。

全篇モノクロ画面でオーバードラップを多用する事で登場人物の感情を昂揚させる。ポイントとなるSLが通過する鉄橋のシーンに注目。

囁む女



1988
製作＝にっかつ
カラー
ビスタサイズ
102分

プロデューサー・山田耕久 監督・神代辰巳 脚本・荒井晴彦
原作・結城昌治 撮影・藤野洋典 編集・鈴木敏
出演・津井かおり 水島敏行 平田隆 余賀美子 竹中直人

古賀は同級生の早苗とホテルへ、行為に興奮した早苗は古賀の肩に囁きかけた。「あなたの家庭を壊したい」と言う早苗に、古賀は「いいよ」と軽く答えた。

ロマンポルノでも数々の名作を輩出した神代監督と鈴木暁のコンビによる編集は、随所に活きのあったベテランの遊び心を感じさせられる。

日本の黒い夏 - 冤罪 -

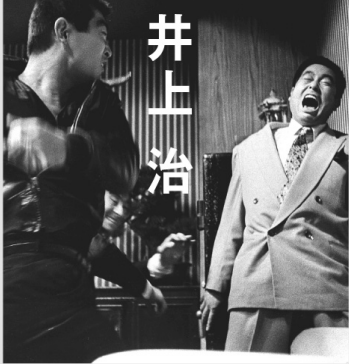


2001
製作＝日活
カラー
ビスタサイズ
119分

製作総指揮・村瀬義典 監督・熊井啓
脚本・熊井啓 原作・平石祥三「NEWS NEWS」 編集・井上治
出演・中井貴一 柳川真実 遠野麻子 北村和夫 寺尾聰

1994年に長野県松本市で起きた松本サリン事件を題材に報道のあり方を鋭く問う熊井啓監督の社会派サスペンス。

複雑な時間軸の展開を編集でわかりやすく見せている。又、井上治自身が夕涼みをする市民の役で出演しているのも見逃せない。



井上治

「無頼」より大幹部



1968
製作＝日活
カラー
シネマスコープ
93分

企画・若井金男 監督・外田利雄 脚本・池上金男 久保田圭
原作・藤田五郎 撮影・高村倉太郎 編集・辻井正則
出演・渡哲也 松原智恵子 川地良一 待田京介 藤竜也

“人斬り五郎”と異名を持つ実在の暴力団幹部・藤田五郎の自伝小説を外田利雄監督、渡哲也も主演で映画化した人気シリーズ第一作。

ラストのキャバレーでの立回りでステージで歌う青江三奈の姿と楽屋裏での壮絶な殺し合いをカットバックで見られる編集は圧巻だ。

団地妻 昼下りの情事



1971
製作＝日活
カラー
ワイド
64分
R18指定

企画・武田清 監督・高村照太郎 脚本・西田一夫
撮影・安藤生半 編集・鍋島淳
出演・白川和子 浜口竜哉 南条マキ 関戸純方 美田陽子

一般作品の場合、男女がペンドインするとカメラはスタンが花コソで逃げる。ホルバは逆して男女のからみを見せ観客を興奮させる。70分で6回も場面を作る。これがロマンポルノなのだ。撮影素材を頼いた状態で、映倫のチェックが入り、カメラに注文がでる「モザイク」をかける羽目になり、映倫との対立は数時間に及ぶこともあった。



鍋島淳

金環蝕



1975
製作＝大映映画
配給＝東宝
カラー
スタンダード
155分

企画・武田清 監督・山本薩夫 助監督・後藤俊夫 脚本・田坂啓
原作・石川達三 撮影・小林清雄 編集・鍋島淳
出演・神代辰巳 日守新一 宇野重吉 京マチ子 高橋悦史

魍魎魍魎の政治の世界。金と権力のドロドロした政治家の暗闘。民政党総裁に絡むダム建設の汚職がやがて殺人事件に発展する。

ドラマが展開する上で登場人物を輩出させ、印象づける為にストップモーションを多用した。深刻な内容に対して美しいインパクトを表現した。

反逆のメロディー



1970
製作＝日活
カラー
ワイド
94分

企画・本江浩三 佐々木志郎 監督・沢田幸弘
脚本・依治悦 蘇武路夫 撮影・山崎善吉 編集・井上治
出演・原田芳雄 佐藤敏次郎 梶芽衣子 藤竜也 地井武男

原田芳雄の日活デビュー作。Gパンに長髪、サングラスという今までのないヤクザ像を演じて日活ニューアクションの先駆けとなった。

全篇手持ちカメラを多用した映像をシャープなカットングで見せている。それまでの日活映画のスタイルを大きく変えた作品。

リボルバー



1988
製作＝にっかつ
カラー
ワイド
115分

プロデューサー・山田耕久 小林保夫 監督・藤田敏八 脚本・荒井晴彦
原作・依藤正午 撮影・藤沢順一 編集・井上治
出演・沢田研二 村上雅也 依倉おどり 橋本明 尾美としのり

依藤正午の同名小説を藤田敏八監督が沢田研二主演で映画化。盗まれた一挺の拳銃を巡って様々な人間模様が開展開する群像ドラマ。

多種多様な人物や出来事が同時進行してゆく複雑なドラマを独特な編集の持ち味でスリリングに見せて行く。編集の魔術はこれだ!

ピンクのカーテン2



1982
製作＝にっかつ
カラー
ビスタサイズ
70分
R18指定

プロデューサー・三浦明 監督・土垣保朗 脚本・高田純
原作・ジョージ秋山 音楽・原マサ 撮影・野田高梧 編集・井上治
出演・佐保純 阿部豊彦 萩原なおみ 望月太郎 酒井隆

同じ部屋で同居生活をする兄妹の危い関係を描くジョージ秋山の劇画を土垣保朗監督が美保純主演で映画化したヒット作の第二弾。

一度は結婚を決意した妹の野理子が駅のホームで佇む姿に遠くの高層ビルを何度もカットバックするラストは彼女の兄への想いが見事に表現されていた。

桃尻娘 ピンク・ヒップ・ガール



1978
製作＝日活
カラー
ワイド
87分
R18指定

プロデューサー・岡田裕 監督・小原宏吉 脚本・金子成人
原作・橋本治 撮影・森原憲治 編集・鍋島淳
出演・竹田かほり 柳川真実 高橋淳子 片桐夕子 内田裕也 岸部シロー

高校生のレナと裕子は愛とSEXについて意見が合わない。突然、裕子の手紙を飛して家出する。レナが裕子を追って次第に離れ始める。

脚本・金子成人の軽妙なセリフのやり取り、同時進行する手紙と回想を織り交ぜ、シーンバック・カットバックで編集構成し、流れを作った。

ゆきゆきて、神軍



1987
製作＝東宝プロダクション
カラー
ワイド
122分

製作・小林佐智子 企画・今村昌平 監督・撮影・原一男
助監督・安岡伸治 編集・鍋島淳
出演・奥崎謙三 美空ひばり 山田吉太郎

終戦後23日目。兵士が隊長命令で銃殺刑される。「私の暴力は許される」元隊長宅を訪ねピストルを发射。「息子でも良かったら」。

私にとってドキュメントは初めての挑戦だ。ドラマとやら変わらない編集構成を試みた。私にとって奥崎謙三との戦いが始まった。

マタギ



1982
製作＝青銅プロダクション
カラー
ビスタサイズ
103分

製作・小島政史 監督・原作・後藤俊夫
脚本・大和屋隆 後藤俊夫 撮影・山崎善吉 編集・鍋島淳
出演・西村英一 山田吉太郎 橋本真智 伴淳三郎 安部吉人

山本薩夫監督と、その愛弟子の後藤俊夫監督とは、数々の作品作りを共にしてきた。両監督作品に編集者として参加してきたことは、映画人としての私の誇りである。動物映画の第一人者としての後藤監督作品「マタギ」は、その中でも秀逸の作品だ。